鉄道・運輸機構
JRTT

報道発表資料

2025（令和 7）年 7 月 2 日

旅客船におけるジャトロファ燃料（バイオ燃料）を用いた供給・運航トライアルを実施

鉄道・運輸機構（以下「機構」）は、2025 年 6 月 13 日から同 15 日、「内航ラボ」の枠組みを活用し、桜島フェリーを運航する鹿児島市船舶局及び南国殖産株式会社との連携のもと、「第十八櫻島丸（プリンセスマリン）」を用いて、ジャトロファ由来のバイオ燃料（ジャトロファ燃料）を同船に供給し、運航するトライアルを実施しました。

2050 年度の内航海運におけるカーボンニュートラルに向け、バイオ燃料への期待が高まる中、機構においては、「内航船の廃食油回収・バイオ燃料活用に関する連絡協議会」（事務局：機構）を設置し廃食油由来バイオ燃料の検討を深堀するなど、内航船におけるバイオ燃料の利用にかかる課題抽出や調査を幅広く行ってきました。

また、機構では、労働環境改善、環境負荷低減、安全性向上等の内航海運事業者が直面している課題の解決に向け、技術のシーズを持つ企業等と同事業者との橋渡しを行い、技術に対する理解を促進し、さらには試行の機会を創出する取組みである『内航ラボ』※を実施してきたところです。

今般、機構では、内航ラボの枠組みを活用して、桜島フェリーを運航する鹿児島市船舶局（船舶所有者）及び南国殖産株式会社（ジャトロファ燃料製造者）との連携のもと、内航フェリー「第十八櫻島丸（プリンセスマリン）」（総トン数 1,240 トン）において、従来から使用している重油とジャトロファ由来のバイオ燃料との混合燃料（混合率 3%）を桜島港において供給し、運航するというトライアルを実施し、特段の問題が生じなかったことを確認しました。

機構は、これからも、内航海運におけるカーボンニュートラルに向けて、バイオ燃料の活用が広まるよう、引き続き「内航ラボ」などの活動を通じ、検討を深度化して参る所存です。

※「内航ラボ」について
https://www.jrtt.go.jp/ship/technology/naikolab/

＜本件に関するお問合せ先＞
共有船舶建造支援部　技術企画課
TEL：045-222-9124

JRTT

内航の課題解決に向けた技術の橋渡し『内航ラボ』

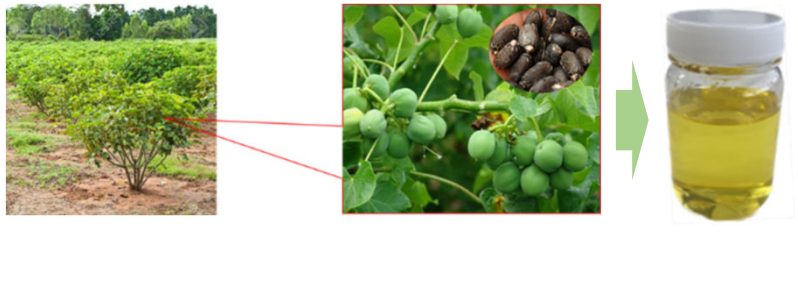
ジャトロファ燃料の活用によるバイオ燃料の利用可能性の検証

ロ 概要

- **ジャトロファ**は、東南アジアで広く分布し、**種子油**含有率が30～40%程度と高い**非可食**の**植物**。
- 国内のカーボンニュートラルの進展を踏まえ、今後の普及が想定されるバイオ燃料の一つとして、**内航船における**ジャトロファを原料とした**バイオ燃料（ジャトロファ燃料）の活用可能性**を検証。
- ジャトロファ燃料を**南国殖産株式会社**が製造。
- **2025年6月**、桜島フェリーを運航する鹿児島市船舶局が所有する**内航旅客船**（総トン数1,240トン）において、**ジャトロファ燃料**（重油との混合燃料、混合率3%）を用いた**航行トライアルを実施**。

■ お問合せ先

（製造メーカー）：南国殖産株式会社　バイオマス推進事業部　TEL: 03-5579-8915
メール: bionenriyoukaihatu@nangoku-group.com



ジャトロファを原料としたバイオ燃料

第十八櫻島丸（プリンセスマリン）における、供給・運航トライアル